

Contemporary

# "School of Art"

JAPAN-KOREA FRIENDSHIP EXHIBITION

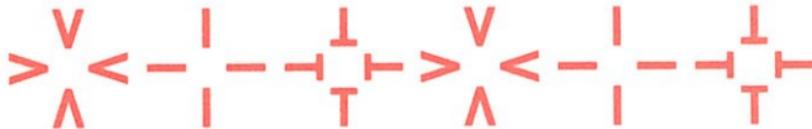
International Exchange Exhibition During The Japan-Korea Friendship Year 2005 Friday 19

July 2005 - October 2005  
please see the computer graphics from the 2001 - 2002.

Refined Works - 1993 - 2002

SOND  
AND +  
A-E  
CA  
PORT  
SI  
MADE  
LECTIONS  
ART AND

# MAD



Organized by Arts Initiative Tokyo

ME / NOT AT HOME

SKATE  
SNOW  
MUSEUM  
HOUR

*Contemporary*

“School of Art”

**MAD**

*Making Art Different 2006*



Arts Initiative Tokyo

MADは、NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT／エイト] が運営しています。受講生は、各コースの受講と同時にAITのサポートメンバーとなり、AIT主催のイベントにて参加費割引などの特典を受けることができます。

## What is AIT?

AITとは?——AIT (Arts Initiative Tokyo) は、2002年5月に東京都より認証をうけたNPO法人で、東京を中心としたさまざまな場所に現代の視覚芸術にアクセスするための「プラットフォーム」の創出をめざして設立されました。「プラットフォーム」とは、AITが企画、制作していくさまざまなプログラムで、アートに興味のあるすべての人が立ち寄れる場です。AITでは、教育プログラム「MAD (Making Art Different)」のほか、アーティストやキュレーターなどによるトーク、シンポジウム、ワークショップ、展覧会、ラウンジ系イベントなどのイベント・プログラム、国内外のアーティストやキュレーターを対象としたレジデンス・プログラム、視覚芸術にかかわる批評や文化の今をバイリンガルで発信するパブリケーションなどがあります。AITは、「不必要的コストを最小限に、必要なコンテンツを最大限に」を活動哲学に、個人や企業、財団、文化機関などと連携しながら、幅広くフレキシブルに、視覚芸術を考える場の創出をめざします。

AIT is a not for profit contemporary art platform which creates a range of programmes and events in Tokyo, JAPAN. It is the first initiative of its kind to be set up in Tokyo, where the situation for contemporary art is changing dramatically with new museum laws and increasing public interest. AIT keeps its activities un-rooted, working without a costly infrastructure. In addition to our ongoing education, residency and information programmes, we often collaborate with other organizations or act alone to make symposiums, club nights, slide talks, curators and artists talks, and exhibitions in different sites around Tokyo.

## Curation: Curation + Project, Curation Intensive

90年代以降、とくに欧米を中心とする大学や大学院などの高等美術教育において、クリエイティブなキュレーションを学習・研究するコースが増えてきました。この社会的な背景には、権力的なグローバル資本主義のネットワークによって表象文化が画一化、単純化、ブランド化されてゆくという動きに抵抗したり、あるいは均衡をはかったり、反省する方法を探るという文化的な傾向が読み取れます。美術の分野においては、これまでの学術的な調査研究と発表といったキュレーションの方向性のみならず、表現を通して社会的な諸問題に対するアクチュアルな言及や、異文化の表象とアイデンティティの追究の可能性、テクノロジーや身体を使ったパフォーマンス性の高い実験、忘れ去られていた記憶のアーカイブ化、あるいは国際的な文化交流に自発的に取り組む動きが具体的に出てきたということが挙げられます。これらはいずれもマスメディアや美術館、商業ギャラリーなどの制度化された場においては取り上げにくいものですが、多様・多層化する文化やその間に横たわる「違い」を読み解いてゆくためには重要な作業といつていいでしょう。

美術作品と空間、そして資金だけでは「キュレーション」は成立しません。「キュレーション」は、単に展覧会をプロデュースするだけでなく、企画する展覧会の美術史における意義や現代の表象文化における問題提起と、それを一般の人々と共有するための具体的な方法が問われます。コンテンポラリー・アートと社会の関係が刻々と変化するに伴って、キュレーションの役割や方法についての議論が展開されるなか、コンテンポラリー・アートのキュレーションとは何かを考察し、その可能性を探ります。

2006年度は、キュレーション+プロジェクトとキュレーション・インテンシブの2コースを設定しています。

# 06

## キュレーション + プロジェクト

キュレーションの歴史や考え方、思想・哲学の基礎を踏まえ、展覧会の企画立案を行います。(4月開講12ヶ月コース)

# 14

## キュレーション・インтенシヴ

美術史や美術理論、思想・哲学、キュレーションの歴史、展覧会作りを通じて、グループで展覧会企画を実現します。(4月開講12ヶ月コース)

# 24

## 20世紀美術史

美術表現の形式、日本の戦後美術史、社会と美術の関係性から、マルセル・デュシャンを出発点とする20世紀以降の美術史について概観します。(4月開講12ヶ月コース)

# 28

## アーティスト

アーティストの自立した活動のためのプレゼンテーション力養成および理論的バックアップを行います。(4月、9月、2007年1月開講各3ヶ月コース)

# 32

## オーディエンス

注目の展覧会やアート・プロジェクト、アーティストのスタジオなどを訪問し、現代美術の基礎について理解を促します。(4月開講7ヶ月コース)

# 34

## マガジン

海外のアート雑誌やウェッブサイトなどの英文記事から、世界各地で展開する現代美術の「いま」を読み解きます。(4月、9月、2007年1月開講各3ヶ月コース)

# 36

## クリティカル・リーダーズ

現代美術を考える上で参考となる思想や哲学に関するテキストを講読します。(4月、9月、2007年1月開講各3ヶ月コース)

# 40

各コースの期間、費用、申込み方法など  
Information

# 42

スタッフプロフィール  
Staff

# 44

活動履歴  
What We Do

# 46

英文概略  
Short English Appendage

# CURATION+ PROJECT



Curation + Project is a one year course that looks at how contemporary art curating is changing today. Students work on an individual exhibition proposal which is presented at the end of the year.

# キュレーション + プロジェクト

「キュレーション + プロジェクト」は、2006年4月から2007年3月にかけて開講されるコースで、キュレーションを理論と実践の面から体系的に考えるプログラムです。2006年に開催される大型の国際展から地域的なアート・プロジェクトまで、実際に行われている展覧会やキュレーションの事例を参照しながら、キュレーションの今について考えます。キュレーション・インテンシブとの違いは、各自がキュレーションや現代美術に対する考え方を探求し、その成果を「オンペーパー」(展覧会の企画立案)という形でコース修了時に提出することです。

コースは、レクチャーとセミナーで進められます。さらに全体を補足するプログラムとして[1]フィールド・トリップ、[2]アーティスト・コースとの交流が組まれています。フィールド・トリップでは、展覧会への訪問を通じてキュレーションの現場を見学し、キュレーターや展覧会を支える専門家と意見交換を行います。また、MADのアーティスト・コースと連携することで、アーティストの考え方やものの見方にふれ、展覧会を立ち上げるまでのプロセスをより具体的に熟考できる環境を提供します。

このコースは主に、キュレーションの理論と実践の基礎的な考え方を学びたい学生や社会人、キュレーションを通じて現代美術と社会の関係を学びたい方、将来海外留学を考えている方、

キュレーションに興味のあるアーティストやアート・マネージャーなどを対象としています。

## レクチャー・シリーズ

### キュレーションの理論

キュレーションを考える上で基礎となるもので、現代美術の展覧会を支えるテーマや考え方の紹介、展覧会の歴史や表現形式の変容、近年の国際展の傾向などのテーマで行われます。美術史よりもキュレーションに重点が置かれ、プログラム・ディレクターやゲスト・レクチャラーにより、知識と経験を踏まえた専門性の高い講義が行われます。

### キュレーションの実践

展覧会の制作におけるマネジメントや宣伝広報、展覧会の記録、資金調達などのテーマを取り上げます。展覧会を作るために何にどのくらいのお金がかかるのか、また効果的な宣传はどのように行ったらよいかなどについて、実際に展覧会の制作をしたプログラム・ディレクターやゲスト・レクチャラーによる講義が行われます。

## セミナー

レクチャーで取り上げられた重要なキーワードをもとに、さらに深く掘り下げて考えることを目的としています。現代美術を理論的に考えるために鍵となる映像やテキストを参考にしながら、知っておくべき用語や考え方を紹介しま

す。ディスカッションを通して、より広範な文化的・批評的コンテクストからキュレーションを理解します。

### フィールド・トリップ

キュレーションの現場がどのようなものか、実際に足を運んで経験します。キュレーターをはじめとする専門家と意見を交わし、場の雰囲気をつかむことで、新たな問い合わせや発見を促し、キュレーションに対しより具体的なイメージを持つことを目指します。これは、レクチャーやワークショップとは別に任意の日程が組まれる予定です。

\*受講料には、フィールド・トリップに関わる費用(但し交通費は除く)が含まれます。

### オンペーパー

受講生が年間を通して取り組むプロジェクトで、プログラム・ディレクターからのアドバイスを適宜受けながら、最終的に展覧会の企画案を作成し、コース修了時に提出する必須課題です。



### レクチャー・シリーズのプログラム

#### Critical Concepts And Core Texts

○モダニズムとポストモダニズム—現代美術の「現代」とは何か

○「西洋」とマイノリティーを考える—「Magiciens de la Terre」(1989)から「Documenta11」(2002)へ

○「アートワーク」から「プロセス」へ—複製技術がアートに仕掛けた落とし穴

#### Curatorial Studies

○キュレーションの基礎—キュレーションとは?

○キュレーション・マッピング—国際展、国際巡回展、地域ベースの展覧会など多様化するキュレーション

○キュレーターの仕事—展覧会の企画立案、予算・運営管理について

○キュレーションの歴史—19世紀の博覧会から美術館の誕生、そして美術館を越えて

○国際展の可能性とは?—グローバリゼーションの時代と表象の問題

○スペースとは?—美術における制度的な空間とそれへの抵抗

○美術館の仕事—パブリックと美術をつなぐ

○タクティカル・キュレーティング—低予算、インディペンデント、脱アートスペースの可能性

○コミュニケーション—PRやプレスリリースなどについて

#### Exhibition Project

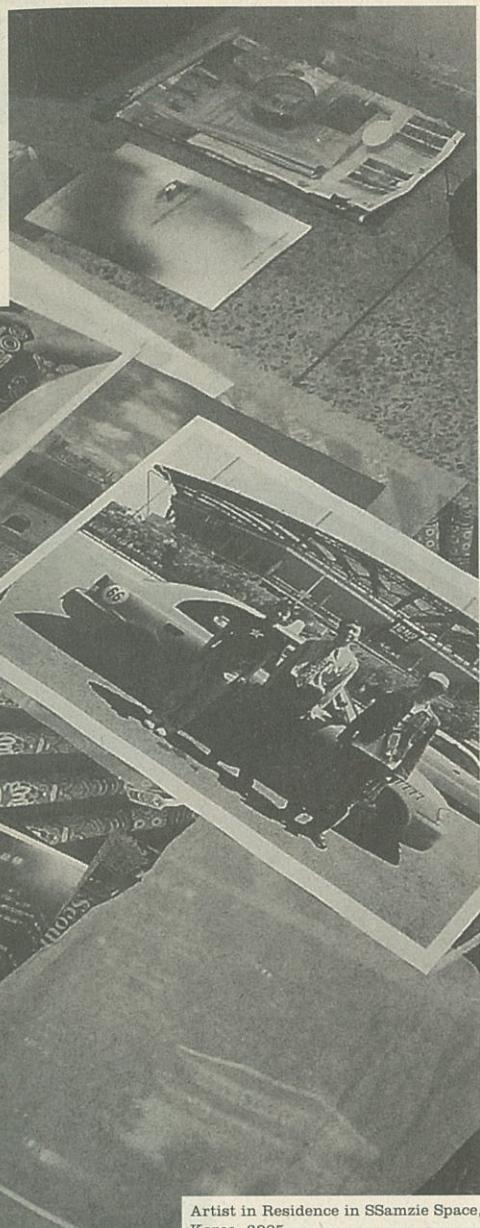
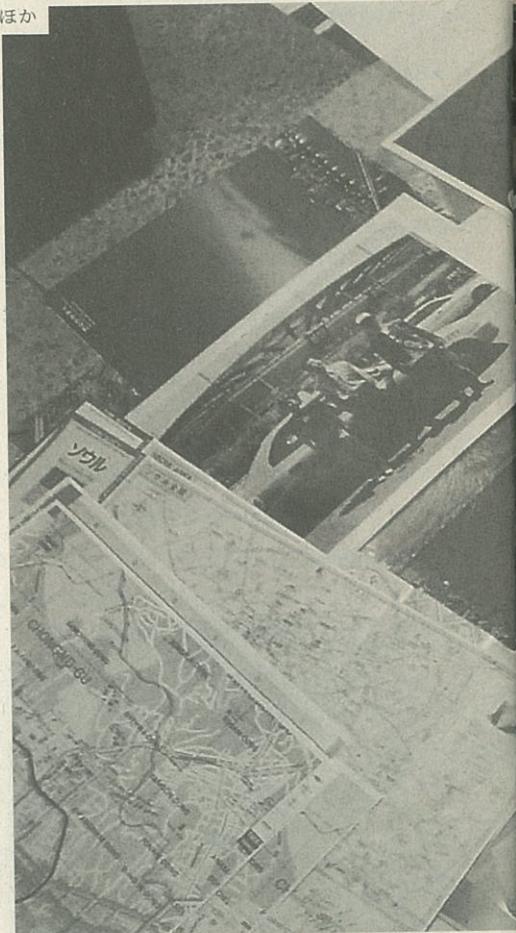
○キュレーションのプロセス—コンセプト作りとアーティストのリサーチ

○展覧会の記録—展覧会の資料化(カタログ制作)

過去のゲスト・レクチャー

- 飯田志保子氏(東京オペラシティアートギャラリー キュレーター)
- 小川希氏(クウェイクセンター 代表)
- 北川フラム氏(越後妻有アートトリエンナーレ 総合ディレクター)
- 中村政人氏(東京藝術大学助教授・アーティスト)
- 杉田敦氏(美術評論家)
- 建畠哲氏(国立国際美術館 館長)
- 南條史生氏(森美術館 副館長)

ほか



Artist in Residence in SSamzie Space,  
Korea, 2005.

# CURATION INTENSIVE

Curation Intensive is a one year course that creates aatory-like environment in which to investigate contemporary art curating practice today. Studer in small groups towards an exhibition project.

## キュレーション・ インтенシヴ

「キュレーション・インтенシヴ」は、2006年4月から2007年3月にかけて開講されるコースで、キュレーションの理論と実践、歴史や思想をふまえて、実際に展覧会を実現することを目的とするコースです。コースは、レクチャーとワークショップ、チュートリアル、フィールド・トリップで進められ、「ラボ（研究グループ）」的な雰囲気のなか、プログラム・ディレクターとのより密度の高いコミュニケーションが図られます。キュレーションの歴史や理論に関する考察に加えて、思想・哲学の鍵となる考え方を手がかりに、わたしたちを取り巻く社会状況と現代美術の関係などについても広く考えます。ワークショップでは、少人数のグループに分かれて、プログラム・ディレクターと共にコンセプト作りやプレスリリースの作成、広報活動、資金調達などのキュレーションの実践に取り組みます。展覧会制作費の一部として資金が支給され、展覧会の実現が目指されます。

コース全体を補足するプログラムとして、[1]フィールド・トリップ、[2]アーティスト・コースとの交流が組まれています。また、MADのネットワークを活用することで、最適なリサーチ環境を作ります。このコースは主に、将来キュレーターとして専門的にアートに携わりたい学生や社会人、様々な展覧会作りの現場に具体的に取り組もうとしている方、キュレーションで海外留学を考え

ている方、キュレーションに興味のあるアーティストやアート・マネージャーなどを対象としています。

### レクチャー・シリーズ

#### キュレーションの理論

キュレーションを専門的に行う上でポイントとなる基礎事項と現代美術と展覧会の同時代性を考えるためのもので、キュレーションの歴史、現在多様化する展覧会の形式、作品形態の変容と空間の関係性、近年の展覧会の傾向、20世紀と表象の問題などのテーマで行われます。プログラム・ディレクターやゲスト・レクチャラーにより、知識と経験を踏まえた専門性の高い講義が行われます。

#### キュレーションの実践

展覧会の制作におけるマネジメントや宣伝広報、展覧会の記録、資金調達などのテーマを取り上げます。展覧会を作るために何にどのくらいのお金がかかるのか、また効果的な宣伝はどのように行ったらよいかなどについて、実際に展覧会の制作をしたプログラム・ディレクターやゲスト・レクチャラーによる講義が行われます。また、実際に助成金や協賛金の申請作業を通して、企画案を具体的に実現するためのスキルを身につけます。

### ワークショップ

ワークショップは、レクチャー・シリーズと並行

して適宜行われます。小グループに分かれ、互いにアイデアを出し合いながら、ひとつの展覧会を共同で構築します。テーマの設定方法やそれに対するアプローチ、アーティストの選考、広報宣伝、作品展示という流れを総合的に理解することを目指します。具体的には、展覧会のコンセプトを掘り下げ、テキスト執筆、キャブションやプレスリリース作成などの作業を行います。

### チュートリアル

チュートリアルは、コース開講時に適宜行われ、レクチャーやワークショップに加えて、プログラム・ディレクターや外部のキュレーターなどと意見交換や議論を行います。受講生の企画・制作を補助するもので、積極的な議論や対話を通じて、現代美術の多様・多層な表現についての理解が促されます。

### フィールド・トリップ

キュレーションの現場がどのようなものか、実際に足を運んで経験します。キュレーターをはじめとする専門家と意見を交わし、場の雰囲気をつかむことで、新たな問い合わせや発見を促し、キュレーションに対するより具体的なイメージを持つことを目指します。これは、レクチャー やワークショップとは別に任意の日程が組まれる予定です。

\*受講料には、フィールド・トリップに関わる費用(但し交通費は除く)が含まれます。

### レクチャー・シリーズのプログラム

#### Critical Concepts And Core Texts

- モダニズムとポストモダニズム—現代美術の「現代」とは何か
- 「西洋」とマイノリティーを考える—「Magiciens de la Terre」(1989)から「Documenta11」(2002)へ
- 「アートワーク」から「プロセス」へ—複製技術がアートに仕掛けた落とし穴
- 20世紀に現われた「世界」という空間と表象—写真、ビデオ、ドキュメンタリー
- ポスト・コロニアルな時代と表象—記憶を記録する
- 「公共性」と現代美術—多様化・多層化する社会と美術の実践

#### Exhibition Project

- キュレーションのプロセス—コンセプト作りとアーティストのリサーチ
- 展覧会の記録—展覧会の資料化(カタログ制作)

#### Curatorial Studies

- キュレーション・マッピング—国際展、国際巡回展、地域ベースの展覧会など多様化するキュレーション
- キュレーターの仕事—展覧会の企画立案、予算・運営管理について
- キュレーションの歴史—19世紀の博覧会から美術館の誕生、そして美術館を越えて
- 展示デザインの歴史—サロンからホワイト・キューブ、そして実験的な空間へ
- キュレーションのアイデアとコンセプト—近年のキュレーションの形式とテーマの傾向
- 国際展の可能性とは?—グローバリゼーションの時代と表象の問題
- スペースとは?—美術における制度的な空間とそれへの抵抗
- 美術館の仕事—パブリックと美術をつなぐ
- アートにおけるイニシアティヴを考える—活動場所がないなら自分たちで作るという考え方
- タクティカル・キュレーティング—低予算、インディベンドント、脱アートスペースの可能性
- コミュニケーション—PRやプレスリリースなどにつ

いて

○マネージメントとファンドレージングー展覧会の実現に向けて

### 2005年度の受講生による展覧会

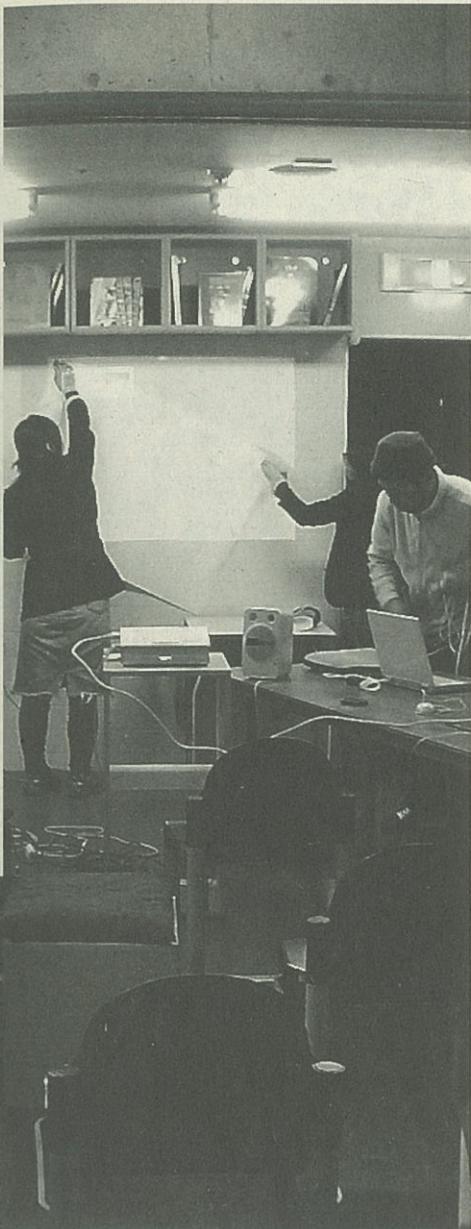
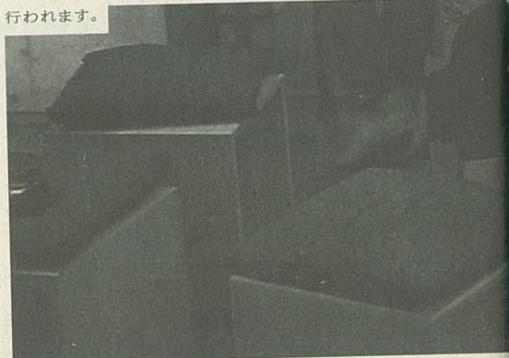
「代官山をあるくー秋山さやか展ー」

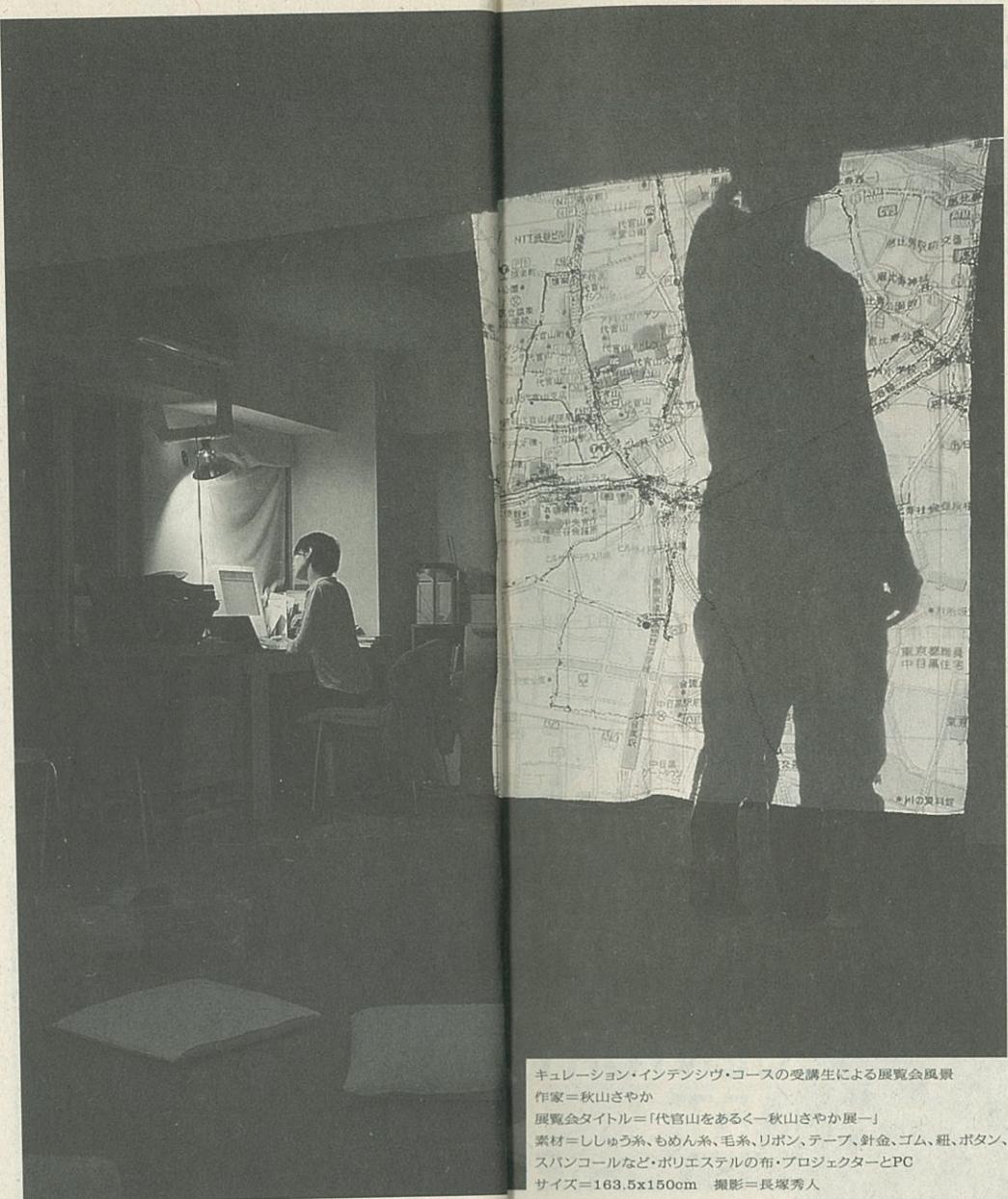
会場 = AITルーム／会期 = 2005年9月30日～10月14日／<http://aluku2005.exblog.jp/>(2005年12月現在)／展覧会日数 = 14日間／入場者数 = 約210名  
本コースに参加した受講生が、企画立案および実施した展覧会。作品やそのプロセスを鑑賞者と共有することで、代官山という土地を読み直すことをテーマとした。作品は、部屋の真ん中で天井から白い布を吊し、そこにプロジェクターで代官山の地図を投影し、さらに布上に秋山氏自身が歩いた軌跡を様々な色や材質の糸などで縫い込むというもの。この展示方法は、受講生と作家との話し合いからうまれてきたもので、作家自身、今回初めて試みた。

#### 過去のゲストレクチャー

- 近藤健一氏(森美術館 アシスタント・キュレーター)
- 住友文彦氏(NTTインターミュニケーションセンター  
キュレーター[AIT])
- 北澤ひろみ氏(ナンジョウアンドアソシエイツ キュレー  
ター)

\*レクチャーの一部は、キュレーション + プロジェクトと合同で  
行われます。





キュレーション・インテンシブ・コースの受講生による展覧会風景

作家=秋山さやか

展覧会タイトル=「代官山をあるくー秋山さやか展ー」

素材=ししゅう糸、もめん糸、毛糸、リボン、テープ、針金、ゴム、紐、ボタン、スパンコールなど・ポリエステルの布・プロジェクターとPC

サイズ=163.5x150cm 撮影=長塚秀人

20th Century Art Histories  
is a one year foundational course  
that considers various  
approaches to art practices  
from 1900 to the present day.

## 20世紀美術史

「20世紀美術史」は、2006年の4月から開講されるコースで、20世紀の美術の変遷を展覧会や作品を通して概観するプログラムです。

このコースは、20世紀における美術の歩みを年代別あるいはテーマ別に概説するレクチャーが中心となります。美術史を古い年代から順に通史的に見るのではなく、美術運動や美術表現の形式、作品などを現在の美術あるいは社会状況との関係において見つめ直す方法を取ります。絵画や写真などのメディアや形式、社会と美術の関係性、そして日本の戦後美術の3項目についてレクチャーが行われます。

レクチャーは、プログラム・ディレクターやゲスト・レクチャラーによって行われ、レクチャー後はセミナー形式でディスカッションをしながら「美術史」について、より深い理解を促します。

このコースは主に、現代美術の全体像に触れてより体系的に学んでみたい学生、社会人あるいはアーティスト、またはこれからキュレーションに取り組んでみたいと考えている方を対象としています。内容、構成とも、キュレーション + プロジェクトやキュレーション・インテンシヴへの基礎を構築するものとなっています。



### 20th CENTURY ART HISTORIES

## レクチャー・シリーズ

### メディアと形式

20世紀の美術史を、メディアを中心に考えます。「絵画」や「写真」、「ビデオアート」、「身体」、「コンセプチュアル・アート」、「ニューメディア」などをテーマとしたレクチャーが行われます。複製技術やデジタル・テクノロジーの到来など眺めることによって、美術の概念そのものが変容しているということを相対的に浮き彫りにします。

### 日本の戦後美術

一般に「正史」といわれるものがない日本の戦後美術史に対する、多層的多角的アプローチを試みます。時代を象徴するような美術運動のほかに、今まで一般的に語られる機会が少なかった重要な美術的な活動についても触れていきます。

### 社会と美術

侵犯や政治性、公共性、社会への提言、ポスト・コロニアル、マイノリティー（社会的少数派）などのテーマで、社会思想を交えながら社会と美術の関わりを眺めます。「美術」として成立するにはマーケットや美術館などの社会的な制度を抜きにして考えることはできません。そうした制度に対して、美術はどのように関わっているか、その仕組みを考察します。

### セミナー

レクチャーで取り上げられた重要なキーワードをもとに、さらに深く掘り下げて考えることを目的としています。現代美術を理論的に考えるた

めに鍵となる映像やテキストを参考にしながら、知っておくべき用語や考え方を紹介します。ディスカッションを通して、より広範な文化的・批評的コンテクストからキュレーションを理解します。

### レクチャー・シリーズのプログラム

#### メディアと形式

- ペインティングに正否はあるか
- 写真という無防備なメディア
- ビデオ・アートの現在—ナム＝ジュン・パイクから90年代へ
- 身体の表現と美術—権力から逃れろ！
- 言語と行為=コンセプチュアル・アート
- ニュー・メディアはアートになりうるか

#### 日本の戦後美術

- 「近代化」「民主化」と美術制度の確立
- ふたつのアンデパンダン展
- 引き裂かれたアイデンティティー大阪万博と美術作家たち
- キーワード「身体、機械、モノ」

#### 社会と美術

- タブーと美の関係性—汚いものと美について
- 建築、美術、パブリックスペース—誰のための公共性なのか
- 「美術」ではない美術—オルタナティヴへ
- ポスト・コロニアリズム—「Documenta11」から沖縄へ
- マイノリティーの声—フェミニズム、セクシュアル・マイノリティー、エスニック・マイノリティーについて



Art works by Johannes Wohneifer, 2004  
 (Installation view of exhibition "Art Scope 2004"  
 at the Hara Museum of Contemporary Art)

# ARTIST AUDIENCE MANAGEMENT

「アーティスト」は、国内外で自分の作品のプレゼンテーションを積極的に行いたいと考えるアーティストのための3ヶ月のコースで、2006年4月、9月、2007年1月より開講されます。キュレーターや評論家に対して自ら作品を紹介することを考えている方、プレゼンテーション・スキルの向上を目指す方、これから海外への留学を考えている方、自らの作品を客観的に眺める機会を得たい方、専門家とじっくり話し合ってみたいという方を対象としています。

刻々と変化する国際的な現代美術の文脈において、現代美術を考える上で参照される美術史や専門用語、基礎となる社会思想、美術界の仕組み、アーティストとして知っておきたい現在の美術状況などについての講義が中心となります。またコース前半にある作品プレゼンテーションでは、発表された受講生の作品や活動をめぐり、受講生やコース・ディレクターが批判的かつ積極的に様々な視点から議論を試みます。そのほかプログラム・ディレクターの経験に基づき、ポートフォリオ、ステートメント（作品制作意図）の作成についても適宜アドバイスをします。

プログラムは10名という少人数制で行われ、最終回のクラスでは、美術専門家（キュレーター、学芸員、美術評論家など）をゲストとして迎え、各自のベスト・プレゼンテーションを目指します。

Artist course is a three month intensive course offering artists and advice on portfolio-making and public presentation, and ideas covering contemporary art and theory. Lectures and organized visits introduce current art and ideas to classroom discussions, and audience through organized talks by guests and classroom discussions.

## プログラム

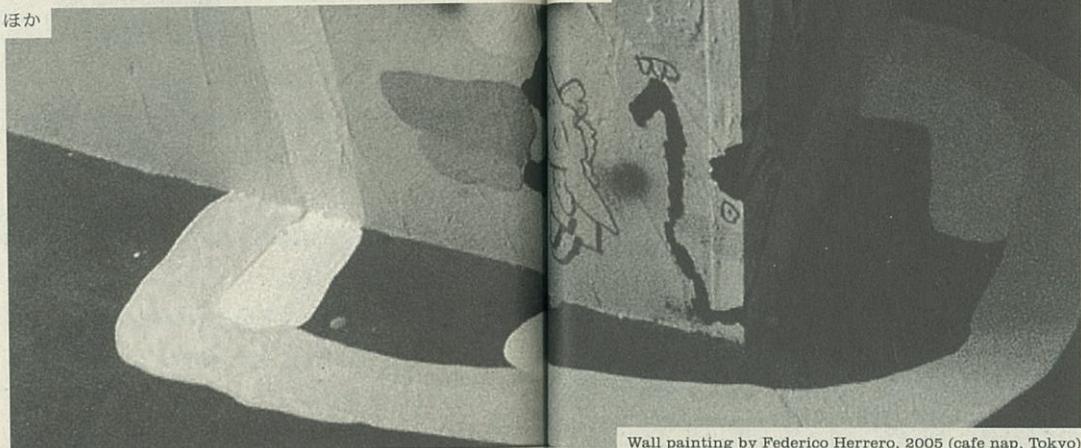
- マッピング・アート・シーン(アート界の仕組みを知る)
- 作品のプレゼンテーションとポートフォリオの作成について
- 60年代、70年代の美術—キーワード:複製芸術、実験、フルクサス、身体
- 80年代、90年代のアートとアーティストの可能性—キーワード:コレクティヴ、関係性の美学、グローバリゼーション
- 現代美術の「現代」性とは何か—社会状況と美術表現の関係を考察する
- 専門家を迎えて各自のプレゼンテーション

### 過去のゲスト

最終回では、専門家に対する各自のプレゼンテーションを行います。これまでに以下の方々を招いて行われました。

- 飯田志保子氏(東京オペラシティアートギャラリー キュレーター)
- 市原研太郎氏(美術評論家)
- 杉田敦氏(美術評論家)
- 住友文彦氏(NTTインターミュニケーションセンター キュレーター[AIT])
- 南條史生氏(森美術館 副館長)
- 保坂健二朗氏(東京国立近代美術館 研究員)

ほか



Wall painting by Federico Herrero, 2005 (cafe nap, Tokyo)

## オーディエンス

「オーディエンス」は、「現代美術って面白そうだけど、難解なイメージがある」「今、話題の展覧会や美術館、アートスポットが知りたい」「現代美術の現場に関わっている人々に実際に会って話を聞いてみたい」という方を対象とする入門的なコースで、2006年4月から12月まで7ヶ月にわたって開講されます。

コース・ディレクターや外部のキュレーター、評論家などによって20世紀の美術史を概観するスライド・レクチャーと、話題の展覧会や美術館、ギャラリー、アート・プロジェクト、アーティストのスタジオなどへの訪問で構成されます。いずれもそれぞれの場や作品に応じたレクチャーや受講者の対話を中心とし、訪問場所によって、メンバー専用の小型バスを活用し、見学を効率的で快適なものにします。その他、2006年に行われる国内外の美術展の最新情報も、実際に現地を訪ねたレクチャーやがヴィジュアル・イメージを交えてリポートします。

現代美術は、現在の社会におけるものの考え方方に広がりをもたらすものです。興味を共有する人たちと共に見て話し合うことで、より能動的な鑑賞の機会を提供します。



## 2005年度 主な展覧会訪問先および講義内容

### [訪問先]

- 森美術館「秘すれば花: 東アジアの現代美術」「ストーリーテラーズ: アートが紡ぐ物語」
- 東京アート・スポット・ツア: 東京都現代美術館常設展示、小山登美夫ギャラリー、タカ・イシイギャラリー、シュウゴアーツ
- 川村記念美術館「世界の呼吸法 アートの呼吸 呼吸のアート」
- 東京国立近代美術館「ドイツ写真の現在ーかわりゆく『現実』と向かいあうために」
- 栃木県立美術館「ヨーゼフ・ボイスと愉快な仲間たちー私はウィークエンドなんて知らないー」
- アーカスプロジェクト2005: オープンスタジオ

### [講義]

- 「日本写真史」飯沢耕太郎氏(写真評論家)
- 「画廊の仕事: 東京画廊の歴史とこれから」山本豊津氏(東京画廊代表)
- 「コンセプチュアル・アートって何?」ロジャー・マクドナルド



## マガジン

「マガジン」は、アーティストやキュレーター、オーディエンス、コレクター、学生、社会人などを対象とする3ヶ月のコースで、2006年4月、10月、2007年1月より開講されます。海外のアート専門誌を通して、「世界のアートをリアルタイムに知りたい」、「注目のアーティストや新しい美術館の動き、話題となった展覧会にふれたい」「アート・マーケットの世界をのぞきたい」という方のためのコースです。欧米やアジア諸国では、現代美術の専門誌が数多く出版されています。そして、それらの誌上では美術を考える際に有効な指標となる「評論」や「批評」が掲載され、理論付けや活発な議論が展開されています。

2005年度のマガジン・コースでは、ヨーロッパ各国において右傾化する政治的な状況を、美術表現を通じ多角的に読み解く「Populism」展(ヨーロッパ内4都市巡回)、あるいはテロがアーティストに与えた影響を検証する「テロについて」展(クンスト・ヴェルケ、ベルリン)などを取り上げ、現代の社会状況と結びついたアートの動向にも焦点をあてました。マガジン・コースは、こうしたテキストで頻繁に用いられる英語の専門用語の解説を行い、またキーワードとなる言葉への理解を促すことを通じて、世界のアートの動向をつかみます。

## プログラム

最新記事が取り上げられるため、クラスの内容は各期により異なります。基本的に、記事はコース・ディレクターが読み進めます。

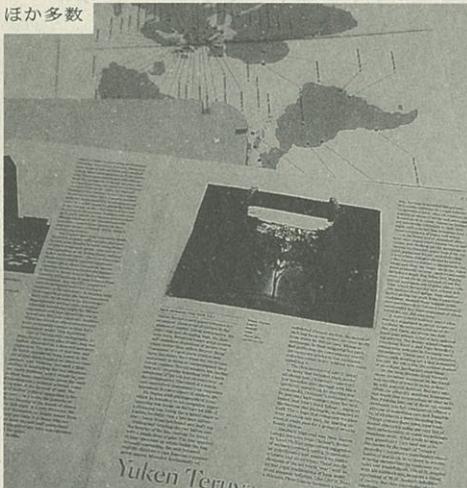
### 雑誌の例

Art Asia Pacific(アメリカ)／Art Forum(アメリカ)  
／Art in America(アメリカ)／Frieze(イギリス)／Contemporary(イギリス)／Art Monthly(イギリス)  
／Art Newspaper(イギリス)／Tama Celeste(イタリア)／Parkett(スイス)／YISHU(中国)／Art in India(インド)など

### 2005年度に読んだ主な記事

- “Debate: Regarding Terror” in frieze issue 89, March, 2005
- “Without Threshold – Chris Meigh-Andrews on Current Video Art” in Contemporary No. 73, 2005
- Sam Jacob, “White Cube Blues” in Contemporary No. 75, 2005
- Benjamin H.D. Buchloh, “The Curse of Empire” in ARTFORUM, September, 2005

ほか多数



CRITICAL  
READERS  
IS A FORTNIGHTLY  
THREE MONTH  
COURSE CENTRED  
AROUND CLOSE  
READINGS OF  
SELECTED CRITICAL  
AND THEORETICAL  
TEXTS WHICH DO NOT  
HAVE JAPANESE → へ  
TRANSLATIONS.  
SCHOLARLY  
ACADEMIC TEXTS AS  
WELL AS CATALOGUE  
ESSAYS ARE READ  
AND DISCUSSED.

クリティカル・  
リーダーズ

「クリティカル・リーダーズ」は、現代美術の表現と社会の関係性を考えたいアーティスト、学生、社会人などを対象とする3ヶ月のコースで、2006年4月、9月、2007年1月より開講されます。マガジン・コースに比べ、英語と美術の知識レベルがより専門的になります。

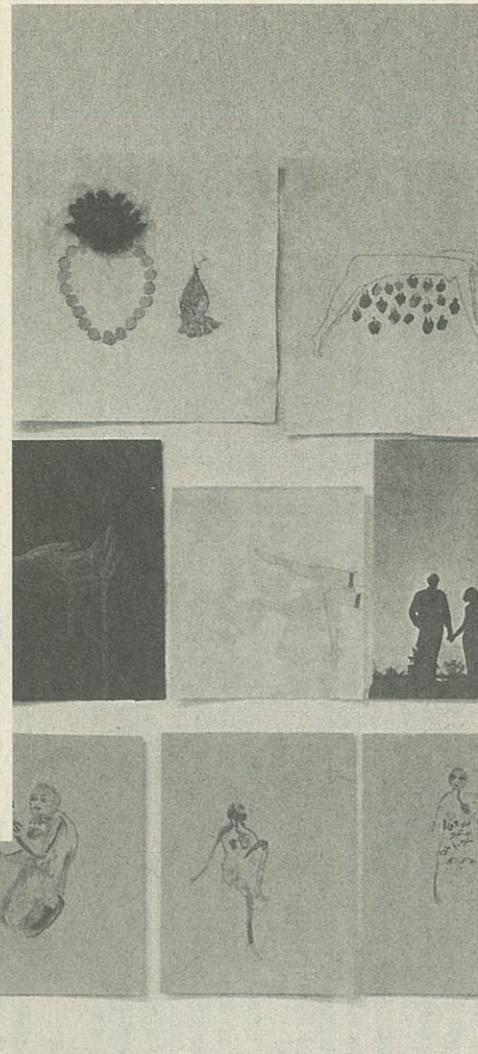
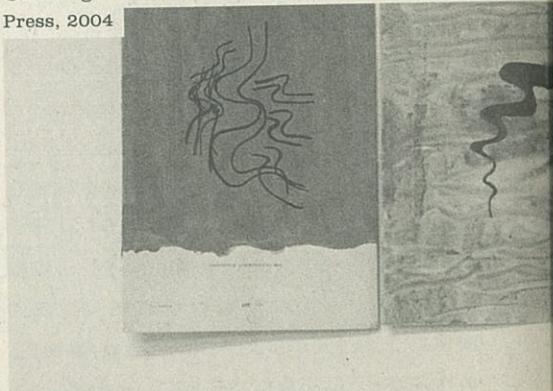
時代と社会の変容にしたがって、美術表現はそれまでに構築された枠組みを超えて多様に変化してきました。現代における美術についてより深く理解するためには、作品を「美術」として成立させている制度や、それが取り上げられる社会的背景に対する関心と洞察力が必要とされるといつてもいいでしょう。国際展などのカタログ・エッセイでは、必ずといっていいほど、思想家や哲学者の著作が引用され、展覧会や作品のみならず、それらを取り巻く社会的な文脈を描き出しています。例えば、2002年にドイツのカッセルで行われた「ドクメンタ11」という国際展では、キュレーターのオクヴィ・エンヴェゾーが、90年代以降に現れたグローバルな社会とそこにおける表現の問題をアントニオ・ネグリとマイケル・ハートの著書『帝国』を引用しながら論じました。また、ニコラ・プリオーは『関係性の美学』という著作によって、「横浜トリエンナーレ2005」を含む90年代以降の展覧会でよく見られるようになってきた「参加型」の作品がどのような点で美術であるかというこ

について議論しています。

クリティカル・リーダーズでは、キュレーターや思想家、哲学者などによる、「表現の現在」を読み解く上で重要なテキストを講読します。美術作品や展覧会、公共のメディア、映画などにおいて、どのような表現がどのような視点でどのように提示されているかを探り、その美術としての有効性や問題点についてディスカッションします。主に英語で書かれた文献を精読するため、英語のレベルが一定以上である方が対象となります。受講者は事前に配布されるテキストを読み、予習を行うことが望されます。

#### テキスト(予定)

- Nicolas Bourriaud, "Relational Aesthetics", Les Presses du Reel, 2000
- Michel Foucault, "Of Other Spaces", basis of a lecture given by Michel Foucault in 1967
- Boris Groys, "Art in the age of biopolitics - from artwork to art documentation", essay from Documenta 11 catalogue, 2002
- A. Negri & M. Hardt, "Multitude", Penguin Press, 2004



Art works by Jumana Emil Abboud,  
installation view at AIT room, 2005

# Information

## CURATION INTENSIVE キュレーション・インテンシヴ [12ヶ月]

期間＝2006年4月11日[火]～2007年3月13日[火] 第2・4火曜日（一部の講義については、キュレーション + プロジェクトと合同となり、開講日が第2・4水曜日となります。8月と9月の一部は休講です）／時間＝19:00～21:00／場所＝AITルーム（代官山）／定員＝8人／費用＝224,700円（税込）【受講料195,000円+施設維持費2,000円+資料費15,000円+選考費2,000円】＊上記の金額には、展覧会制作費用が一部含まれています。／受講資格＝申込書とインタビューによる選考あり。

## CURATION + PROJECT キュレーション + プロジェクト [12ヶ月]

期間＝2006年4月12日[水]～2007年3月14日[水] 第2・4水曜日（8月と9月の一部は休講です。）／時間＝19:00～21:00／場所＝AITルーム（代官山）／定員＝15人／費用＝201,600円（税込）【受講料180,000円+施設維持費2,000円+資料費10,000円】／受講資格＝特になし。ただし、定員を大幅に超える場合、選考あり。

## 20th CENTURY ART HISTORIES 20世紀美術史 [12ヶ月]

期間＝2006年4月6日[木]～2007年3月15日[木] 第1・3・5木曜日（8月と9月の一部は休講です）／時間＝19:00～21:00／場所＝AITルーム（代官山）／定員＝20人／費用＝201,600円（税込）【受講料180,000円+施設維持費2,000円+資料費10,000円】／受講資格＝特になし。ただし、定員を大幅に超える場合、選考あり。

## ARTIST アーティスト [3ヶ月]

期間＝春：2006年4月22日[土]～2006年7月8日[土] 第2・4土曜日 秋：2006年10月14日[土]～2006年12月16日[土] 第2・4土曜日（12月は9日と16日になります。） 冬：2007年1月13日[土]～2007年3月24日[土] 第2・4土曜日／時間＝14:00～16:00／場所＝AITルーム（代官山）／定員＝各回10人／費用＝38,850円（税込）【受講料35,000円+施設維持費2,000円】／受講資格＝特になし。ただし、定員を大幅に超える場合、インタビューによる選考あり。

## AUDIENCE オーディエンス [7ヶ月]

期間＝2006年4月15日[土]～2006年12月2日[土] 第1・3・5土曜日（8月と9月の一部は休講です。）／時間＝14:00～16:00（見学する日は、時間を変更することがあります）／場所＝AITルーム（代官山）および訪問先／定員＝12人／費用＝75,600円（税込）【受講料70,000円+施設維持費2,000円】／受講資格＝特になし

## MAGAZINE マガジン [3ヶ月]

期間＝春：2006年4月5日[水]～2006年6月21日[水] 第1・3・5水曜日 秋：2006年9月20日[水]～2006年11月29日[水] 第1・3・5水曜日 冬：2007年1月17日[水]～2007年3月28日[水] 第1・3・5水曜日／時間＝19:00～21:00／場所＝AITルーム（代官山）／定員＝各回12人／費用＝36,750円（税込）【受講料33,000円+施設維持費2,000円】／受講資格＝特になし。ただし、定員を超える場合選考あり。

## CRITICAL READERS クリティカル・リーダーズ [3ヶ月]

期間＝春：2006年4月13日[木]～2006年6月22日[木] 第2・4木曜日 秋：2006年9月14日[木]～2005年12月14日[木] 第2・4木曜日 冬：2007年1月18日[木]～2007年3月29日[木] 第2・4木曜日／時間＝19:00～21:00／場所＝AITルーム（代官山）／定員＝10人／費用＝38,850円（税込）【受講料35,000円+施設維持費2,000円】／受講資格＝現代美術と社会の関係性に関心がある方。

## SPECIAL LECTURES 特別講座

通常開講している7コースのほかに、MADサマーコースや、大学や他のNPO法人との連携で行われる公開講座が不定期的に開講されます。これらは、現代美術の専門講座や集中入門講座で、東京以外の都市でも行っています。2006年度の夏は、京都で短期講座を開講予定です。また、AITではアーティスト・トーク・シリーズおよびスライド・トーク・シリーズなども開催しています。【過去の特別講座】2004年8月27日・28日・29日 MADサマーコース「3日間の現代美術集中講座」代官山AITルーム／2005年2月11日・12日 MAD in KANSAI「現代美術とキュレーションについて」神戸アートビレッジセンター内1room／2005年7月29日・30日・8月6日 MADサマーコース「『写真』とは何だろう？」代官山AITルーム

## LIBRARY

ライブラリー（AITルーム別室）には、現代美術の展覧会カタログ、アーティスト・モノlogue、ビデオ、雑誌、スライドなどの広大なアーカイブがあります。受講生は予約制にてこのライブラリーを利用することができます。

○講義内容と日程は、変更される場合があります。その場合は事前に告知されます。○原則として、申し込みが受理された後のキャンセル・返金は受け付けません。○定員に達した場合はお断りする場合があります。

**お申し込み方法** AITのホームページよりお申し込みいただくか、下記問い合わせ先まで、お名前、ご住所、ご連絡先（電話、ファックス、携帯電話など）を明記の上、メールにて申込書をご請求ください。地図はホームページをご参照ください。尚、1年に3回、申し込み時期にMAD OPEN DAY (MADのコースについての説明会) を開催しています。詳しくはお問い合わせください。

特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]

〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町30-3 ツインビル代官山A-502 Tel: 03-5489-7277 Fax: 03-3780-0266 E-mail: office@a-i-t.net http://www.a-i-t.net

## Staff

ロジャー・マクダナルド[コース・ディレクター]：1971年生まれ。イギリスのケント大学にて宗教学修士課程修了後、美術理論にて博士号を取得。1998年より、インディペンデント・キュレーターとして、国内外で数々の小規模な展覧会を企画。これまでに「横浜トリンナーレ 2001」のアシスタント・キュレーターとして活動した他、主に次の4つのプロジェクトがある。美術の作品を埋め、発掘し、それをギャラリーのスペースに展示した「エクスカバーション(Excavation)」(Aki-Ex Gallery／東京／1998)、イギリスのアーティストが自分の作品を様々なバッグに入れて持ってくる「バッグズ(Bags)」(Gallery-ES／東京／1998)、作品がEメールやファックスの指示書によってキュレーターに送られ、キュレーターがそれをもとに展覧会を作った「アート版：ジャパンセンター(Japan Centre: Art Version)」(自宅／ロンドン／1999)。また、2002年より続いている展覧会プロジェクト「ムービング・コレクション(Moving Collection)」は、スーツケースで移動しながらテーマを変化させてゆく。興味の対象は幅広く、キュレーションの歴史、特権的なアートスペース以外で行われるインディペンデントなキュレーションの可能性の研究のほか、キュレーションと社会政治研究のための個人的なアーカイヴ作りに取り組む。2006年に第一回目を迎える「シンガポール・ビエンナーレ2006」キュレーター、武蔵野美術大学非常勤講師。



小澤慶介【コース・ディレクター】：1971年生まれ。明治学院大学文学部フランス文学科卒業後、ロンドン大学ゴールドスミスカレッジにて美術史の修士号を取得。これまでに、麹町画廊においてサキサトムヤウリ・ツァイグの展覧会や、ポスト9.11における記憶の生成をテーマにした「your memorabilia 記憶へのまなざし」（東京国際フォーラム／東京／2003）、強大な霸権が世界をひとつにまとめようとする社会的な状況においてパラダイスはどのようなものとして可能なのかという事柄にアプローチした「paradise views 楽園の果て」（東京国際フォーラム／東京／2004）、現代の社会に管理される／管理され得ない人間の「身体」を取り上げた「dreaming bodies 夢みる身体」などのビデオアートのグループ展を企画。また、「借景—Slowly Becoming—」（東京日仏学院／東京／2004）では、美術館以外の場所で、作品が日常の風景に介入し同化してゆくというインスタレーションの展覧会を手がけ、場と作品と鑑賞者の持続的な関係による展覧会、あるいは作品という概念を追究した。これらのプロジェクトは、後期近代あるいはポストコノニアルな時代において様々な文化のモードをどのように表すことができるのかという表象の問題系に対する興味から起こされている。最近のリサーチの対象は、20世紀、21世紀の歴史あるいは地勢学的位置とそれを眼差す政治的主体によって、断片化をまぬがれ得なかった「沖縄」の表象について。アートフェア東京アソシエイト・ディレクタ－、明星大学非常勤講師、慶應義塾大学非常勤講師。



住友文彦[レクチャラー]：1971年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科表象文化論コース修了。スパイラル、金沢21世紀美術館建設事務局学芸員を経て、現在はNTTインターナショナルコミュニケーションセンター キュレーター(ICC)のキュレーター。韓国、中国、日本のアーティストがテクノロジーの発達をそれぞれの問題として受け止めしていくことをテーマとした「アウト・ザ・ウンドウ」展(国際交流基金アジアセンター／東京／2004)、戦後のアーティストたちが実験的に取り組んだアートとテクノロジー融合の取り組みを取上げた「Possible Futures: アート&テクノロジー過去と未来」展(ICC／東京／2005)などをこれまでに企画。主な共著に、「1990年代以降の現代美術において大きな流れを形成した〈関係性の美学〉を考えるうえで重要なアーティスト、リクリット・ティラヴァニヤを取り上げた「身体の贈与」(共著「表象のディスクール6 創造」、小林康夫・松浦



寿輝編、東京大学出版会、2000年)、近年増加している映像・音響作品について書いた「映像の中へ」(共著「21世紀の出会いー共鳴、ここ・から」、金沢21世紀美術館、淡交社、2004年)、「複雑で便利な時代と見えなくなるアート」(共著「21世紀における芸術の役割」未来社、2006年)などを執筆。各種雑誌に執筆、および大学での講義をおこなう。近現代の美術、及び美術を成立させている制度に関心を持つ。なかでも、日本の戦後美術を現在の視覚文化論を応用しながら再考察することと、テクノロジーの発達がもたらしている社会や文化の変化を研究することに取り組んでいる。現在、2006年秋にオーストラリアで行われる日本の現代美術展を企画中。武蔵野美術大学非常勤講師。



中森康文 [レクチャラー]：早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、米国ウィスコンシン大学ロースクールにて法律博士号を取得。ニューヨーク州弁護士業の傍ら、近代・現代美術史および理論を学び、ニューヨーク市立ハンターカレッジ美術修士課程（写真史・視覚文化）在籍。2002-3年にはホイットニー美術館のキュレトリアル・アシスタントを務め、2003年夏の「American Effect」展を担当。現在コーネル大学美術史部博士課程在籍（写真論）。ニューヨーク近代美術館教育部成人・アカデミックプログラム講師。最近の展覧会には、“A City of Light: Photographs by Naoya Hatakeyama”（College of Santa Fe Marion Center for Photographic Arts／アメリカ／2005）がある。

小沢有子〔マネージング・ディレクター／レクチャラー〕：学習院大学法学部政治学科卒業後、イギリスのサザビーズインスティテュートオブアーツにて現代美術ディプロマコースを修了。帰国後、ナショナルアンドソシエイツにて「イタリア現代美術1945-1995」展、「大林組コーポレートアートプロジェクト」、「サンパウロビエンナーレ2002」など国内外の展覧会やアート・プロジェクトのコーディネート、コンサルタント、マネージメントを担当。2002年、仲間と共にNPO法人アーツイニシアティヴトウキョウを立ち上げ、代表に就任。社会のニーズを読みながらAITの考え方や手法を注ぎ込むさまざまなプロジェクト（展覧会、イベント、ワークショップ、レジデンスなど）を企画・運営する。こうした経験をふまえ、マネージメントや組織運営に関する講義を行う。東京藝術大学非常勤講師。



肥田暁子〔アシスタント・スタッフ〕：学習院大学文学部哲学科美学美術史専攻卒業。在学中、1998-99年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジに留学。2003年MADのキュレーションコース修了後、AITのスタッフに加わる。これまでに「アート・スコープ」展（原美術館／2004、2005年）や「パブリックリー・スピーキング」展（トーキョーワンダーサイト渋谷／2005年）など、AITの行う様々なプロジェクトのコーディネーションに携わる。MADではアドミニストレーション担当。



宮原洋子〔サポート〕：慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。1995-2002年ナンジョウアンドソシエイツにおいて、国際美術評論家連盟(AICA)日本大会事務局、「横浜トリエンナーレ2001」における120名余の制作ボランティアのコーディネート、MADの立ち上げ等に携わる。2002年からは森美術館副館長秘書として、開館準備段階より勤務し、現在に至る。



# What We Do

## MAD: Making Art Different

2001年より開講している現代美術の教育プログラム。受講者の約6割は社会人、4割は学生。社会人は、アートやデザイン、建築関係から銀行や金融、広告代理店など広い分野にわたります。学生は、美術系大学のほか、国立・私立大学の様々な学部に在籍する学部生や院生が含まれます。※受講者数：約600名

2001年	「キュレーション」「オーディエンス」の2コースを開講。
2002年	「キュレーション」「オーディエンス」「アーティスト」「マガジン」の4コースを開講。
2003年	「キュレーション」「オーディエンス」「アーティスト」「マガジン」「クリティカル・リーダーズ」の5コースを開講。
2004年	「キュレーション」「キュレーション・インテンシヴ」「オーディエンス」「アーティスト」「クリティカル・リーダーズ」「マガジン」の6コースを開講。短期集中講座「MADサマーコース2004」を実施。
2005年	「キュレーション+プロジェクト」「キュレーション+アートヒストリー」「キュレーション・インテンシヴ」「オーディエンス」「アーティスト」「クリティカル・リーダーズ」「マガジン」の7コースを開講。 神戸アートヴィレッジセンターにて「MAD in KANSAI 2005」。7月には東京で「MADサマーコース2005 真実とは何だろう？」を開講。
2006年	「キュレーション+プロジェクト」「キュレーション・インテンシヴ」「20世紀美術史」「オーディエンス」「アーティスト」「クリティカル・リーダーズ」「マガジン」の7コースを開講。

## ARTISTS / CURATORS IN RESIDENCE

国内外の団体や財団、基金と連携しながら、アーティストやキュレーターを東京に招聘あるいは海外に派遣するレジデンス・プログラム。2003年秋よりプログラムを開始し、2005年からは、日本人アーティストを海外に派遣するプログラムもスタート。これまでに、海外から東京への招聘者は、15名。日本から海外への派遣者数は6名で、今後も独自のレジデンス・プログラムを展開予定。

2003年	Marit Lindberg (スウェーデン) IASPIS / AIT提携プログラム
2004年	Federico Herrero (コスタリカ) 助成=財団法人トヨタ財団 Kyungah Ham (韓国) SSamzie Space Johannes Wohlfelder (ドイツ) / 荘司美智子 (日本) アート・スコープ 2004 ダイムラー・クライスラー・ファウンデーション・イン・ジャパン
	Camilla Carlsson (スウェーデン) IASPIS / AIT共同プログラム Liz Hughes (キュレーター、オーストラリア) Asialink / AIT共同プログラム
	Aurora Reinhard (フィンランド) FRAME / AIT提携プログラム
2005年	Jumana Abboud (イスラエル / レバノン) 助成=財団法人トヨタ財団 笛口數 / 玉村大樹 / 森弘治 (日本) [派遣先=韓国] Young-In Hong / Yang-ah Ham / Kyongju Park (韓国) SSamzie Space / AIT共同プログラム Leif Holmstrand (スウェーデン) IASPIS / AIT提携プログラム
2006年	Sophie O'Brien (キュレーター、オーストラリア) Asialink / AIT共同プログラム 名和晃平 / 森弘治 (日本) Katja Strunz / Georg Winter (ドイツ) アート・スコープ 2005 / 6 ダイムラー・クライスラー・ファウンデーション・イン・ジャパン

## ARTISTS TALKS AND SLIDE TALKS (selected)

国内外のアーティスト、キュレーター、美術専門家などによる講演会。ドリンクを飲みながらリラックスした雰囲気の中で、アーティストやキュレーターに実際に会って、話を聞く機会を提供しています。  
AITが招聘した人のトークのほか、さまざまなプロジェクトで東京を訪問している人たちが、自分たちの仕事について発表・紹介する場でもあります。

2002年	「境界を擴す」2002年ホッピニー・バイエニュアルのチーフキュレーター、Laurence Rinder氏によるスライドトーク「東京国際フォーラム映像ルーム (有楽町) [Thinking of Documenta11: 第11回ドクメンタを考える]ワコールアートセンター 「スパイラル」スパイラルルーム (青山)
-------	---

	「ドクメンタとマルチカルチャリズム：ドクメンタ11の共同キュレーター、Sarat Maharaj氏を迎えて」
	「サキサトム：アーティストが考えるキュレーション」AITルーム (代官山)
	「Carl Holmqvist：アーティストにできること?」AITルーム (代官山)
2003年	第8回NICA福岡シンポジウム「Art Break: 未来は語る」①「未来を創る—新発想の美術教育」②「日本の中のアジア、そこから見える日本」③「東京のオルタナ系アートグループ大研究」東京国際フォーラム 「Coming and Goings：ニュージーランドのコンテンポラリー・アート ガヴェット・ブリュスター・アートギャラリー ディレクター、Gregory Burke氏を迎えて」AITルーム (代官山) 「Christopher Williams (ドイツ) アーティストトーク」AITルーム (代官山) 「Björn Melhus (ドイツ) アーティストトーク」AITルーム (代官山) 「Shilpa Gupta (インド) アーティストトーク」AITルーム (代官山) 「文化・経済・教育～文化庁文化部長の寺脇研氏を迎えて」ボーラミュージアムアネックス (銀座) 「At Home / Not at Home? アーティスト・イン・レジデンス最新事情」ボーラミュージアムアネックス (銀座) 「国際交流基金主催セミナー China Breakz 中国現代美術のエネルギー」国際交流基金国際会議場 (赤坂)
2004年	「At Home / Not at Home? アーティスト・イン・レジデンス最新事情vol.2」AITルーム (代官山) 「カナダからバンクセンターコー理事長 Mary Hofstetter氏を迎えて」AITルーム (代官山) 「Henk Visch (オランダ) 自らを殺した男 アーティストトーク」AITルーム (代官山) 「Skart (セルビア) アーティストトーク」AITルーム (代官山)
2005年	「カーリージョ・ヒル現代美術館館長 Carlos Ashida Queto氏を迎えて(メキシコ)」AITルーム (代官山)

## EXHIBITIONS AND WORKSHOPS

展覧会やワークショップ・イベントを国内外の美術館、ギャラリー、オルタナティヴスペース、体育館、クラブなどで企画、実施しています。2006年は、国際交流基金主催のパングラデッシュ・ビエンナーレでは、AITが日本コミッショナーとして参加し、藤浩志と照屋勇貴の作品を出品する予定です。また、松下電器産業株式会社との共同企画「12時間美術館」が、2006年3月に予定されています。

2002年	「AIT HOUR MUSEUM 2002」新橋の旧桜川小学校の体育館にて一日8時間限定の美術館を開館。 「ミローマヨルカ島の光の中で」展 関連ワークショップ「ミロの秘密の島」を三鷹市美術ギャラリーおよび三鷹市芸術文化センターにて開催。
2003年	フェデリコ・エレーロ個展「Japanopera - Vertical Thoughts」ギャラリー小柳ピューアングルーム (中央区新川) 「メディアーナ：日本のコンテンポラリー・アート」展の協力 カヴェット・ブリュスター・アートギャラリー (ニュージーランド)
2004年	「AIT・スコープ」の12年、アーティスト・イン・レジデンスを読み解く展の企画協力。 原美術館 (品川) 「AIT HOUR MUSEUM Vol.2」スーパーデラックス (西麻布) 「第二回アジア・欧洲芸術キャンプ：アートと新しいテクロジー」をアジア・欧洲財团 (シンガポール)と共に開催。アジアとヨーロッパから22名の美術専攻学生と8名の美術専門家を招聘。パナソニックセンター東京・多摩美術大学上野毛キャンパスなどにブレイクチャードを行なう。
2005年	「AIT・スコープ2004」Cityscape into Art- 荘司美智子+ヨハネス・ヴァンザイファー」展の企画協力。 原美術館 (品川) CCA (カリフォルニア・カレッジ・オブ・アーツ) キュレーション・プログラムの修士課程学生を招聘。日本の現代美術調査や講義、フィールドトリップなどを実行。
2006年	「アートと話す／アートを話す」ハウハウからコンテンポラリー：ダイムラー・クライスラー・アート・コレクション」展の企画協力 東京オペラシティアートギャラリー (新宿区) 「パングラデッシュ・ビエンナーレ2006」国際交流基金主催 日本コミッショナー 「12時間美術館 ART x COMMUNITY x ECO」松下電器産業株式会社と共に開催。

The little book you hold is the course guide for AIT's MAD education programme for 2006. All of the courses are taught in Japanese, and hence the absence of English. So this is a brief explanation of the courses and its contexts.

AIT is a non profit arts collective started by six Tokyo based curators and organisers in 2002. We got together to try to initiate things which we felt were either lacking or weak in Tokyo. Our fields of interests revolve around contemporary art, theory, education, artist and curator in residency, new media and sound art, actions and events.

One of the programmes which we started from the beginning is an independent school called MAD (Making Art Different). MAD is unaffiliated with any universities or schools and we run it by ourselves.

There are seven courses currently offered, all of them fee paying. The fees go towards the general running of AIT. In Japan state or city funding for non profit organisations like ours is very limited, so we must initiate programmes which cover costs and generate income.

The focus of MAD is on discussion based teaching rather than studio practice or technical tuition. All of the classes take place in the AIT room in Daikanyama Tokyo. This is our office during the day and transforms into various kinds of spaces as we need - a classroom for MAD, meeting space for slide talks, a gallery space, a performance space or a club space. The space accommodates up to forty sitting and more standing.

MAD classes, though, tend to average around 15 people, making it easier for discussion.

One of the characteristics of MAD is a focus on curatorial studies. As far as we know we offer the first curatorial training course in Japan (several universities offer arts management courses though). Not being a museum or gallery, our approach to curating tends to be very broad, encompassing many of the usual aspects

of arts management and history but also focusing on recent tendencies in the non profit and alternative sectors, event-based exhibitions and community practices. We try to locate ourselves firstly within the Japanese context, and then open up toward global perspectives. Hopefully this results in different ways of thinking about curating, when compared with similar courses offered in the US and Europe.

Curation Intensive course is a graduate level course in which students work on realising a project of any type. Curation + Project course is a slightly more leisurely course combining lectures, practical workshops and culminating in each student writing a proposal for an exhibition or project.

In addition to curating courses there are five other courses. 20th Century Art Histories course is a lecture based introductory course into post-war art history; Magazine course is a course where current English language contemporary art magazines and websites are reviewed and discussed in the group; Critical Readers course is a course where theoretical and critical texts related to art practices now are read and discussed; Artists Course is a development-type course for artists where presentation skills and basic contemporary art history is taught; and finally Audience course is an introductory course for contemporary art fans where we visit exhibitions in groups, listen to guest speakers and discuss the perennial question "why is so and so art?".

The contexts for art have been shifting in Japan over the last decade with new laws for making museums less dependent on public funding, an emerging non profit and maturing 'alternative' sectors, a widening contemporary art fan base and ever hybridising art forms and events. Hopefully through our MAD programmes we provide one discursive arena where such changes can be reflected upon from Tokyo within a global context.

特定非営利活動法人

アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT／エイト]

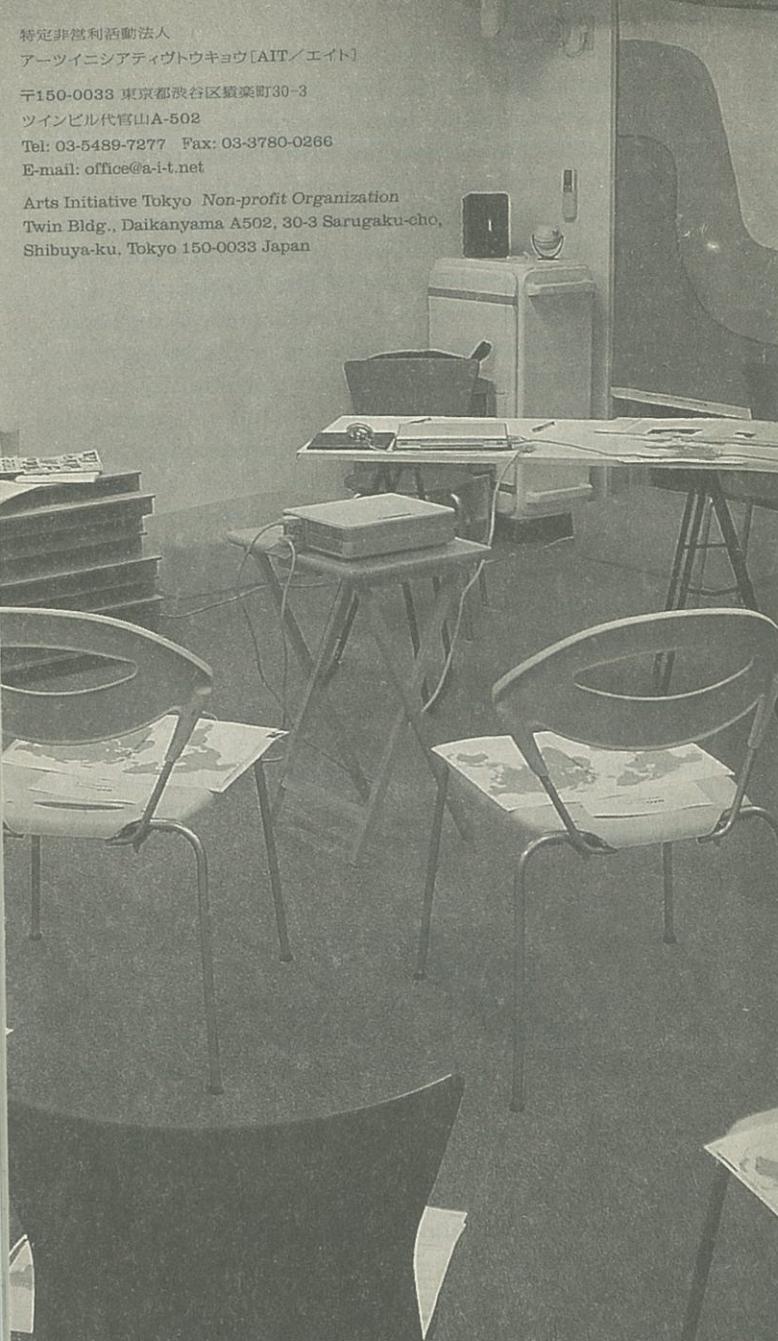
〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町30-3

ツインビル代官山A-502

Tel: 03-5489-7277 Fax: 03-3780-0266

E-mail: office@a-i-t.net

Arts Initiative Tokyo Non-profit Organization  
Twin Bldg., Daikanyama A502, 30-3 Sarugaku-cho,  
Shibuya-ku, Tokyo 150-0033 Japan



# What is MAD?

MADとは?——MAD(Making Art Different) =アートを変えよう、違った角度で見てみよう)は、独自の講義と現場の議論を重視したコンテンポラリー・アートの新しいエデュケーションを目指します。MADでは、美術史や美術理論の基礎に加えて、社会・経済の動き、歴史や思想・哲学を参照することで、さまざまな視点から現代美術の「いま」に迫ります。すべてのプログラムは、国内外の現代美術の現場で活動しているキュレーターや研究者、アート・マネージャーなどの専門家によって組まれ、美術館学芸員あるいはキュレーター、アーティスト、美術評論家などのネットワークにより、近年における現代美術の動向や表象文化の問題に対してアクチュアルなアプローチを実現します。

MADは、2001年よりスタートしたエデュケーション・プログラムで、7コースを開講しています。

MAD stands for Making Art Different. It is the educational programme of the non profit contemporary arts organisation AIT (Arts Initiative Tokyo).

Over 130 students enroll annually in the seven courses offered. MAD looks closely at contemporary art issues within a broad interdisciplinary context.

As an independent programme MAD courses are flexible and friendly.